

令和6年度学校自己評価システムシート (県立戸田翔陽高等学校)

S07

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。 2 自身も他者も尊重し、自ら判断して行動する自律性を育成し、自己肯定感を高める。 3 探究する力を育て、多岐にわたる進路希望の実現を系統的・組織的指導で支援する。 4 学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価					学 校 評 価 (月 日 現 在)	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 一人一台端末を利用した授業改善は実施されているが、成績不振者の数が増加している。 【課題】 ・一人一台端末の活用。 ・生徒の言語能力の育成。 ・成績不振者の増加。	生徒が端末を利用する機会を増やし、ピアラーニングや表現活動など、生徒の言語能力を育成する活動を充実させる。	①ICT 機器の活用により、基礎的な知識の定着を図る。 ②ICT 機器の活用とアクティブラーニングの授業の実施により、生徒の表現活動の機会を増やし、言語能力を育成する。 ③日本語支援員、学習サポーター等による積極的な学習支援を実施する。	①生徒の授業評価において、理解度が向上したか。 ②生徒が一人一台端末を利用した学習活動ができたか。 ②言語能力の育成のため、より多くの言語活動を実践できたか。 ③成績不振者数を減らせたか。	①授業アンケートによる授業満足度は去年と同じ 4.4 (5段階)であった。授業の理解度は向上していると考えられる。 ②一人一台端末を利用した授業の ICT 活用研修会を実施し、生徒の端末を積極的に活用する授業をすることで、生徒の発表活動など言語能力を育成する言語活動を実施することが出来た。 ③成績不振者は増加してしまった。主な原因に欠席の多さがあり、個別の対応だけでなく、学校全体としての取組みを更に検討していく必要がある。	B
2	【現状】 多様な背景を持ち、自己肯定感が低い生徒がいる。自身の行動に責任を持ち、自ら判断して行動できる生徒の育成が望まれる。 【課題】 ・多様な背景を持つ生徒の基本的な生活習慣の確立。 ・外国籍の生徒への支援の充実や多文化共生意識の向上。 ・生徒の自己肯定感の向上。 ・成年年齢引き下げに伴う教育の組織的、継続的な実施。	自ら判断して行動する場面を増やすとともに、生徒の自己肯定感を高める。 自尊心と相手を尊重する心を醸成する。	①基本的な生活習慣を身に付ける取組みを継続するとともに、生徒が自ら判断し行動する場面を作る。 ②成年年齢の引き下げに伴う授業や講演会を計画的に実施する。	①生徒の自律性を高める教育活動の場が作れたか。 ①生徒の自己肯定感を高め、中途退学者数を減らせたか。 ②成年年齢の引き下げに関する授業や講演会等を計画どおりに実施できたか。	①生徒自ら学校紹介動画を作成したほか、生徒が中心となった中夜祭を実施し、20周年記念花火を打ち上げることができた。また、生徒の意見を取り入れ夏季食事場所の変更を行った。 ②新聞社と連携したニュースリテラシー出前授業や県警とりそな銀行と連携した金融教育講話を実施した。	A
3	【現状】 進路希望・実績ともに、大学短大、専門学校、就職と多様化している。 【課題】 ・時代の変化への対応。 ・進学指導の充実。 ・多様化する進路希望。 ・年次、教科と連携した進路指導部主導の進路指導。	探究的な学習の場面を増やすとともに、生徒一人ひとりの多様な進路に対応する。	①「産業社会と人間」の系統立てた実施により、生徒の進路意識を高める。 ②各種ガイダンスや外部模試受検の促進等、進学希望者の支援を更に充実させる。 ③データ化した求人票を活用し、保護者とも連携しながら就職支援を粘り強く実施する。	①生徒の進路希望・適性検査をもとに「進路の手引き」を効果的に活用した履修指導ができたか。 ②各種ガイダンス等の実施により、生徒の学習意欲・進路意識向上につながれたか。 ③進路指導の満足度は高かったか。	①各大学の説明会や企業合同説明会に3年次教職員や進路指導部が積極的に参加して情報収集を行い、三者面談等を通して生徒の進路希望にそった指導や助言を行うことができた。 ②ガイダンスでは、希望する分野の参加だけでなく、「進路適正検査の結果」分野への参加も促し、幅広い進路選択・進路意識の向上につながった。 ③共通テスト(一般)受験希望者に向けた外部模試の実施や、補習・勉強方法などの学習意欲の向上に繋げた。就職希望者には戸田市からの就職支援サポートを開始した。	A
4	【現状】 地域連携を生かした活動を実施できるようになってきた。もっと地域との交流の場を増やす必要がある。 【課題】 ・地域と交流する場面を増やす工夫。 ・積極的かつ持続的な地域へのPR活動及び生徒募集の推進。	地域との連携により地域に根付いた学校づくりに取り組む。 学校の特色を積極的にPRし、志願者を増加させる。	①各関係機関との連携を生かして、生徒の活動を充実させる。 ②学校通信の近隣自治会への回覧を継続するとともに、地域との交流を充実させる。	①県及び市関係行事などに生徒が関わることができたか。 ②学校通信を発行するとともに、文化祭などを地域に案内することができたか。	①戸田市ふるさと祭りは中止になったが、代わりに市と連携し、戸田マラソンのボランティアに参加することができた。 ②学校通信を13号発行し、近隣自治会に回覧するほか、学校公式インスタグラムを開設し、学校の様子を地域、保護者に発信することができた。	A
			①進学フェアへの参加や積極的なホームページの更新を行う。 ②生徒の活動の場も含めて、学校説明会の実施方法を工夫し、教育活動のPRを充実させる。	①ホームページのアクセス数を増やせたか ②学校説明会参加者の高い満足度は得られたか ②志願者数を増やせたか。	①12月末時点でHPを197回(昨年度118回)更新した。新たに学校公式インスタグラムを開設し、広報活動を行った。 ②学校説明会に新たに施設見学を取り入れるほか、新規に体験授業を企画、実施することができた。 ②12月15日現在、Ⅰ部0.92倍、Ⅱ部1.26倍、Ⅲ部0.41倍。	A

学校関係者評価	実施日 令和7年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTは、クラウドを活用すると、欠席した生徒へのフォローとして有用である。授業中スクリーン投影では見づらい文字も、後で配信されたスライド等で確認できるので助かっている。非常勤の先生方にも積極的に活用していただきたい。 ・欠席については、個々の理由について対応が必要であるため、まずは欠席の理由について知る必要があるだろう。 ・学校紹介動画は、1日を通した学校の様子が生徒目線で良く分かり非常に良いものである。生徒会生徒を中心に生徒の活躍の機会が増えてきている。今後は更に全生徒が関わるように工夫していくと良いだろう。 ・投票を経験した高校生が、選挙や投票について分からないことが多かったという話があるため、学校でも選挙啓発出前授業(模擬選挙など)を実施してはどうだろうか。 ・かけはし特支の授業に参加する形での連携は初めてであったが、非常に良いものであった。ぜひ今後もバージョンアップさせた形で進めてほしい。 ・模試の対策講座など、先生方の取組みで進学希望者が増えているように感じている。 ・模試やテストなど、生徒が適度な緊張感を持つ場面をもっと増やした方が良い。 ・卒業後の進路に向けたタイムスケジュールや必要な情報を提示して指導すると良い。 ・適正検査の利用は、生徒の視野を広げるのに非常に良い。行政と連携した就職支援等も継続していただきたい。 ・ぜひ地元のお祭りにも参加していただきたい。年齢や国籍等を越えた交流も必要である。公民館まつりでの写真部の展示が非常に好評であったので、今後も連携を進めたい。 ・Instagramは非常に好評であるため、生徒会や部活動のInstagramがあってもいいのではないかと。 ・生徒の声をもっと聴くことのできる学校説明会や、生徒が中学校に話をしに行くのが生徒募集には良いだろう。

